



席

明治三六年  
九月十一日  
無  
未

小野小町いれと佳吉の遊女とて。その像うわさ  
 桂の眉墨細して白粉とほご紋日れ衣摺後して  
 揚屋の座蒲おまきりぢう。若徒正月の仕合  
 く。何あこの玉葉さねおみうつて来る御が  
 のせえほぐと味線乃。いらいこの〇あく一  
 ぶ新ねは。あつたかやうはははは。い  
 女房の身揚乃借續しあやうる有あ。何

掛念かけごんのあはれはあめりねなるの男おとこのいづかたへ  
 水みづもせて粹すいとさへい。雪ゆきももて月つきも  
 赤こゝろんふりあはさ方かた更さら。今いま堂どうわさるゆゑ。さ  
 めりあはさる舞まひせしを。このまゝ五ご巻まきの巻まき  
 紙かみも綴つむして。人の心を結むすぶものなり

作書

其後  
 自笑  



# 風流七小町

## 一之巻 目録

第一 初はつの師しの女に色いろに徳とく偶ぐまは護ご下げは次つぎ

女に中ちゆう井けい酒しゆ扱さく極ごく色いろにゆり紅べにきり人の床とこ

夜よの色いろに様やう目めのんくふ火か燈とうは垢あか

津つ波なみ寄より花はなの地ぢの好このふ男おとこねむ

第二

紀清を首ふりけてある競馬は勝負

護戸の煙りまつるる急乃園路

ふいおよひの家の髪しいまゝ窓を

とが眼とぬつた方れ病ふ女才の所持

第三

從據小取始乃みうたけらごと母乃方

の巻の雲のあい玉持清の文勢信

金銀とをちり明らる肉流れ物

ゆ返るとけめた中らるの何せ者

一

初師の師の女は名は僅偶まて護戸の灰

程伊川の田邊勢の女色の人を恋し湯とわり後よを云

乃ろろね根うう源とぬ。六巻の樂歌サリやいづも

みる狀辭とるべ。その中にまをいひらちやがたの娘歌

れ道ぞう。かろろいゆりてねそるべ。はまのいづここの

ゆらひかり。まの約律と中づり。夏の虫身とこがす。ふれ

とつと黙の女氣流うだて令流ううらぐ。又一角とつるは人

女とんをよ通カ自立と失るる。まがらるのまのまのまの

てゆきのらぶりにうらみ流るる。たふらけは空すまはははは

ふりすて山道せありしてふ。女のまのまの勢とつるまのまのま

















し、あつひ若狭あて太田の御許入りくる日も切まらう。天倉屋店とて  
こじのら屋二番と通まらう。惟ち親王とて小田の天らをもわがりのも  
は、後よつひまらう。其御侍心いそほ。我と太政大臣の侍よのちり。此  
侍心の紀をあら。紀の名虎とらぬわら。馬とて一人とてきりねと  
わいよのまゝのぞらう。ひらう。さうれども。神の神宝何者か。後  
しきん。若狭隆勢の初より。きりぬれ。侍の解とあ。強きもの  
わら。九族と絶えんと。地をくらう。て。金使われども。今にゆゑとてこれ  
ざらう。室の山物の形。目山神。石室の姉妹。小田ゆあ。この  
か。らう。中と。巫と。神女を。か。後。几つかう。げと。と。玉。祀。大  
ま。般と。出。ま。の。端と。海やう。で。容色。嫁。婿の。母。の。と。な。む。う。の。と。  
あ。ら。い。新。通。作。ら。あ。れ。を。汲。で。方。の。く。あ。ら。う。さ。ら。い。う。て。市。東  
神の。と。た。ら。あ。は。は。の。の。神と。姉。妹。わ。り。神。の。と。あ。れ。て。免。百。日。小  
百。首。の。奇。と。後。き。絶。え。んと。百。日。の。間。禁。を。け。り。ま。い。と。市。東。の。屋  
敷。小。斎。院。わ。る。は。ま。は。お。田。の。情。わ。ら。ん。と。な。ま。ま。も。あ。ら。う。と。て。人  
ん。ご。い。もと。ま。は。は。ん。と。い。う。あ。け。情。ひ。あ。り。う。て。あ。ま。ば。さ。ぬ  
と。と。る。人。相。と。ま。は。は。を。使。は。す。ら。ん。い。は。び。あ。は。は。を。と。ら。あ。ら。い。何  
と。と。と。あ。ま。は。の。つ。ら。あ。け。の。情。と。ま。ま。も。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。あ  
あ。ら。い。ま。ま。も。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
は。令。は。て。り。と。わ。ら。れ。難。き。と。ま。ま。も。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
の。敏。乃。玄。國。の。あ。ま。い。は。の。人。ゆ。え。う。と。ら。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
醫。者。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
小。田。姫。の。い。腹。づ。ら。の。妹。ゆ。と。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
は。は。屋。敷。に。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ  
婚。れ。と。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ。ら。う。と。は。あ









紀伊正冬  
紀の冬  
と

大七  
小方  
ミロ  
イ

おし  
月

中  
の  
中  
の  
中  
の

丸  
の  
丸  
の



公中も中もいあつりう。女と一むにお果ておさひのとけりしかみ娘よ  
 ごと世の人れ笑程よかる娘あらしとさういふ事者の人であつと養  
 こそお世にお世ねと名をとり。さうもたて世の人れあつりう。氣う  
 つふもつてせいの事いふ人あつて。すその切んとするおへ娘あつ  
 ちあひ事女とおひいけ人の親とせぬ。是れいふ事いふ事あつたにふ  
 うけう。事女がまよさう。さうも切りう。神おとすと。おまを我を  
 おまをいふ事者の中とさう。さうもいふ事いふ事いふ事いふ事  
 よつていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 おまをいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 ちのいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 及よいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

つい小路の家れ娘とついでお世ね娘あつた。そのいふ事いふ事いふ事  
 のいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 お世ねのいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 おまをいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 ちのいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 及よいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 つい小路の家れ娘とついでお世ね娘あつた。そのいふ事いふ事いふ事  
 のいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 お世ねのいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 おまをいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 ちのいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 及よいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事





しつゝいふやうに、  
中ねのほほむらひ、  
してせむいふげふらむも、  
ふそのほほむらひ、  
こりたれ、  
丹ねるより、  
たゞいふに、  
けりせ、  
くら、  
あぢい、  
まら、  
と、  
み、  
せ、  
わ、  
つ、  
あ、  
お、  
の、  
め、  
海

一之巻終



